

海外の話題

外出制限下で少し進んだ生活のスマート化

農林中央金庫 シンガポール支店長 原 勇一郎

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、各国で人々の生活に大きな制限がかかるようになった。シンガポールでは多くのオフィスだけでなく、小売店やレストランが閉鎖され、外出時はマスク着用が義務付けられた。また、不要な外出、同居家族以外との接触、親族や友人宅の訪問までも禁止された。国民総引き籠り状態になったわけであるが、このような状況が2か月も続くと自然と環境に適応するようになる。スーパーも入場制限があったり検温などで並ぶため、ネット購入に大きくシフトした。アリババ系列のRedmartのアプリを使い、生活用品から野菜や乳製品に至るまで、ネットで購入するようになった。幸い自宅にすることが多いため、不在で受け取れないことはない。配送能力が拡充されて金曜日にオーダーすれば土日には配達されるため、生協のように定期的に発注するようになった。1週間分を計算して発注し、できるだけ冷蔵庫にある食材で調理をするようになったのでフードロスも減ったかもしれない。

不要不急の外出をすることが無くなったため、タクシー配車アプリのGrabの利用は4月以降見事にゼロである。反面、Grabにはレストラン宅配機能もあり、こちらの利用回数は増えている。外食が出来ないことから、プチ贅沢が宅配にシフトしただけであるが、苦境に立つ日本食レストランをささやかながらも支えたいという思いもある。なお、GrabにはGrabpayという電子マネーもあり予めクレジットカードなどからチャージしておけば、QRコードを利用してスマホ決済することもできる。利用できる店舗数も増えており、個人的にはパン屋などで利用することが多い。無論タクシー代やレストラン宅配の決済にも利用できる。

気が付けば、実質的な都市封鎖（サーキットブレーカー措置）が実施された56日間で現金を使ったのは散髪で支払った15ドルくらいであった。ポストコロナで正常化が進んでもこの流れは続きそうだ。飲み会の精算などでも、従来から政府が支援する電子決済プラットフォームのPaynowを利用している。各銀行のアプリから利用できるが、携帯電話番号と金額を入れるだけで即時送金が無料で可能である。購買行動だけはスマートシティの住人に近くなった気分になる。こうなってくると新しいサービスに手を出したいと思いはじめ。これもちょっとした「変化を追い風に」ということだろうか。

最近利用したのは海外送金アプリのTransferwiseである。こちらも送金先口座情報と金額を入れるだけで国際送金ができる。身分証明書と公共料金の請求書をアップロードするだけで本人確認が完結する。手数料も低く、他社や銀行との料金比較が都度表示されるため、透明性も高い。国際送金にもかかわらず、30分程度で日本側での着金が確認できた。少額の送金であれば利用しやすいだろう。

日頃慣れ親しんだ習慣は多少不便でも中々変えにくい。しかし一度必要に迫られて変えてみるとその快適さを実感する。今般のコロナにかかる環境の変化も従来のやり方を見直す好機と捉えて前向きに進んでいきたいものである。